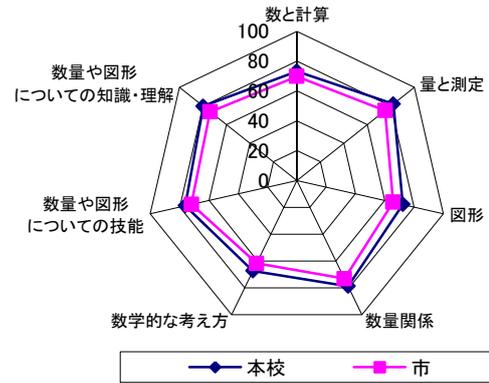


# 宇都宮市立今泉小学校 第3学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	73.2	69.8
	量と測定	82.2	75.2
	図形	72.3	65.7
	数量関係	78.7	73.1
観点別	数学的な考え方	67.3	61.7
	数量や図形□についての技能	76.1	72.0
	数量や図形□についての知識・理解	79.7	73.8



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>・「文書問題を解くための式」を考えることはよくできていたが、あまりのあるわり算を使った文章題や、繰り上がりのあるたし算・かけ算の問題で多少誤答があった。</p>	<p>・繰り上がりのある計算では、位をよく確認してノートに書くなど、計算式を分かりやすく書き表せるよう丁寧に指導する。また、文章題を解く機会を増やし、正しい答えが出せるよう繰り返し復習させていく。</p>
量と測定	<p>・市平均正答率を7.0ポイント上回った。「時刻と時間」に関する設問では市平均正答率を上回ったが、長さや重さを適切な単位で表す問題で誤答が目立った。</p>	<p>・生活の中で「長さ」や「かさ」を意識する場面を意図的に設け、生活体験の中で量や単位などが身につくよう工夫する。</p>
図形	<p>・正答率は市平均を6.6ポイント上回った。直方体の知識を問われる設問は正答率が85.1%であったが、その知識を活用する設問の正答率が低かった。</p>	<p>・実物に触れて考えるなど、体験的な活動を取り入れた授業の充実に努める。その上で発展的な問題に触れる機会を増やしていく。</p>
数量関係	<p>・「棒グラフ」を読み取り、項目を示す設問では正答率が96.8%であったのに対し、「□を使った式」に合った文章問題を選ぶ問題では、市の平均正答率を上回ったものの52.1%と低い回答率であった。</p>	<p>・「□を使った式」の使用場面を再確認し、確実に身につけられるようにする。また、「棒グラフ」は目盛りの読み方を復習し、正しく読み取れるよう指導する。</p>